

時 期	年間通して	時 間	半日程度
難易度	★☆☆	対 象	どなたでも



# 防災キャンドル



## <活動の概要>

非常時に備えて、ろうを溶かして防災キャンドルをつくりましょう。  
 なぜ備えが必要なのか、防災を意識しながら自分だけの防災キャンドルを作製してください。  
 出来上がったキャンドルを、非常用持ち出し袋に入れておくと、停電時などに役立ちます。  
 灯りとしてだけでなく、見た目を工夫したり、香りを加えたりすることで、災害時の不安な心が癒されるかもしれません。

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立若狭湾青少年自然の家

## 活動のねらい

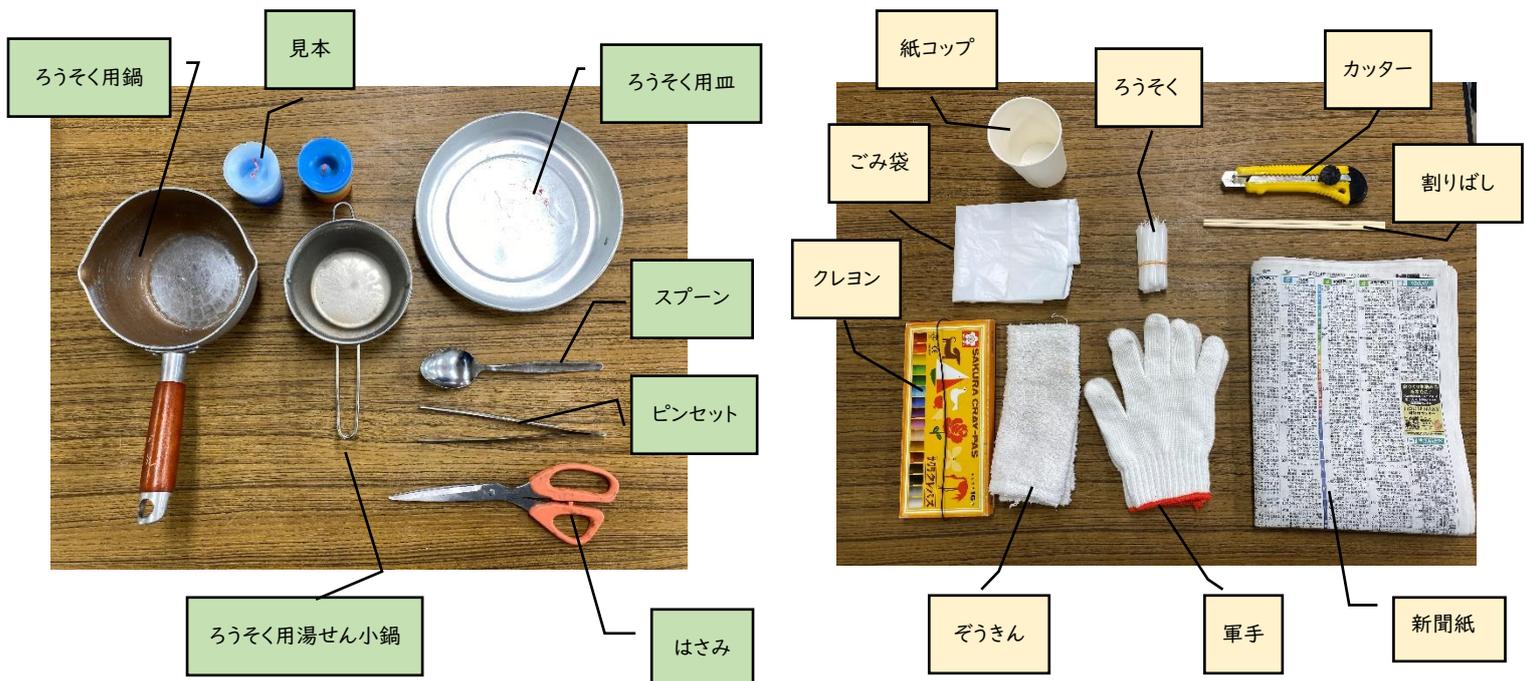
- ・ 防災の意識を高め、もしもの時の備えを考える。
- ・ 防災時の灯りの必要性を知り、キャンドル作りの意欲を高める。
- ・ 仲間の作品を互いに鑑賞し、理解を深め合う。
- ・ 準備から後片付けまで、協力してやりとげる。

## 準備物

自然の家で準備しているもの			団体で準備するもの(1人あたりに必要な数量)	
用具名	場所	個数	用具・材料名	個数
はさみ	自然の家事務室	20本	ろうそく(食堂で購入可)	小口5号
見本	自然の家事務室	5個		5~6本
防災キャンドル導入資料	自然の家事務室	2部	軍手	1双
防災キャンドル作り方資料	自然の家事務室	2部	ぞうきん	1枚
ろうそく用鍋	海の学習室	5個	ごみ袋(食堂で購入可)	1枚
ろうそく用湯せん小鍋	海の学習室	18個	新聞紙	適宜
ろうそく用皿	海の学習室	20枚	紙コップ	適宜
ろうそく用スプーン	海の学習室	5本	割りばし	適宜
ろうそく用ピンセット	海の学習室	5本	クレヨン(ろうに色をつける場合)	1セット
			カッター(クレヨンを削る際に使用)	1本

※自然の家で準備している活動用具の数は「利用ガイド～資料編～」にも記載しています。

※海の学習室には鍵がかかっています。鍵は事務室で貸出します。

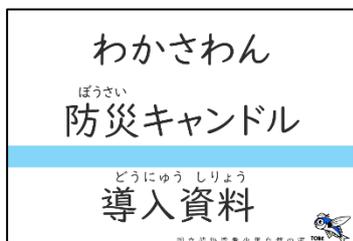


## 導入資料について

防災キャンドルの導入として、防災に関する資料を用意しております。

導入資料・作り方の資料を希望される場合は、自然の家事務室へお声がけください。

また、若狭湾のウェブページにも掲載していますので、ぜひご活用ください。



防災キャンドル  
導入資料

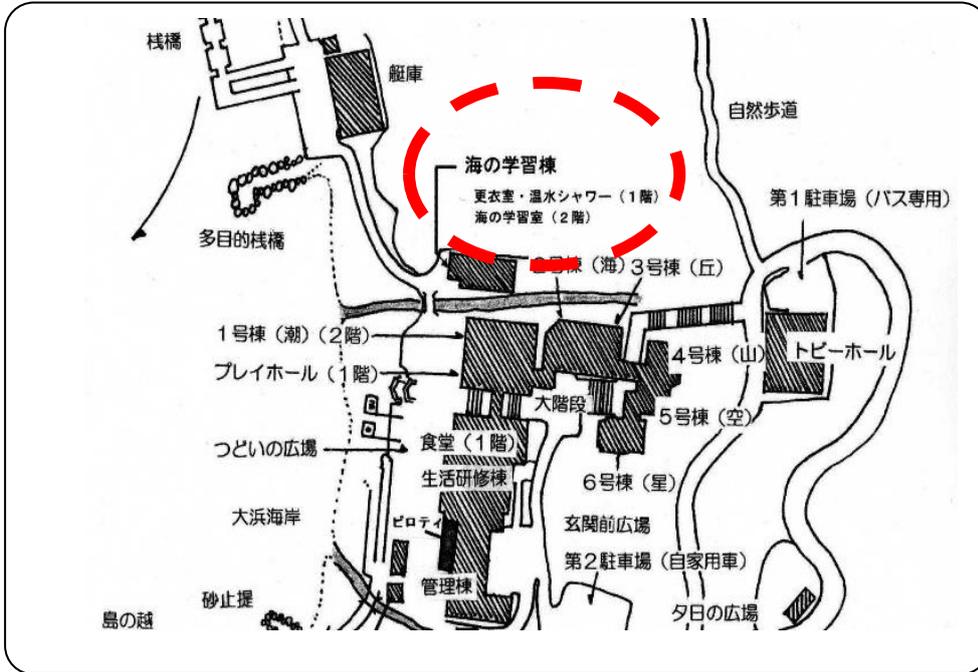
## 作り方

- ① ろうそくを小鍋に入れ、お湯を沸かしたろうそく用鍋で湯せんをし、ろうそくを溶かします。  
一人分は、5～6本が目安です。  
※ろうそく用鍋はとて熱いのでやけどに注意しましょう。
- ② 溶けたろうそくからピンセットを使って芯をとります。  
※幼稚園児や小学校低学年の児童は、必ず大人の人と一緒に作業しましょう。  
※溶けた「ろう」はとて熱いのでやけどに注意しましょう。
- ③ 溶かしたろうを紙コップに流し込み、芯を固定します。  
※ろうそくの芯は、割りばしで固定してください。  
※溶かしたろうにクレヨンを削って入れることで、色をつけることができます。
- ④ ろうが固まったら紙コップをはがして出来上がりです。  
※ろうそくを使うときは、必ず紙コップをはがしてください。



## 活動場所

- 海の学習室 (鍵がかかっています。鍵は事務室で貸出します。)



## ふりかえりの視点

- 防災の視点を持って活動をする事ができたか。
- 材料などから豊かな発想をし、表し方を工夫して楽しんで作ることができたか。
- できた作品をお互いに見合うことで、それぞれの良さに気づくことができたか。
- 協力して準備、後片付けができたか。

## 指導上の留意点

- 火の取り扱いには十分気をつけてください。
- 「ろう」を溶かすと、「ろう」と鍋が大変熱く(高温)なるので、やけどをしないように十分気をつけてください。
- 貸出備品や机、床についた「ろう」は新聞紙等できれいにふき取り、片づけてください。
- 使用時は、紙コップは剥がしてください。